

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471200123		
法人名	特定非営利活動法人 CSOおおいた		
事業所名	地域福祉支援センター フェリス千歳		
所在地	大分県豊後大野市千歳町前田1160番地		
自己評価作成日	平成28年6月16日	評価結果市町村受理日	平成28年8月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www kaigokensaku jp/44/index php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosvoCd=4471200123-00&PrefCd=44&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府 壱番館 1F		
訪問調査日	平成28年7月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①利用者の「個性」・「自己決定」・「選択の自由」などの意思を尊重し、望ましいホームでの生活が送れるよう支援しています。
 ②職員は利用者様の立場に立ち、考え、話し合いを重ねることにより、大切な家族の一員であることを踏まえた支援を提供しています。
 ③地域、家族、関係機関の協力を仰ぎ、利用者の方々にとって安心できる住まいとなるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間の自然豊かな環境の中、有料老人ホーム等と併設して建てられた2ユニットのグループホームです。昨年、同敷地内に開設したリハビリ棟では、専門職(P-T)等が利用者の身体機能の維持、活用に向けて、積極的に働きかけ、日常の生活の中でも職員がリハビリを行い、安全で安心して楽しく生活を送れるよう援助しています。地域の深い結びつきが、ホーム運営に活かされ、住民からの見守り支援等協力を得ながら生活基盤を作っています。災害訓練の地域消防団の協力、10周年記念秋祭りには地域の方が大勢参加しコミュニケーションを図る場としています。広報誌も地域各戸に手渡しで配布し、その時の会話で地域のニーズを把握し、事業所の運営に反映させています。利用者、家族の安心、安全、信頼に繋ぐべく職員は研修会、勉強会を通じ質の高いサービスが提供できるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にやつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のよう 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外 部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況	実践状況	
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所の見やすい所に掲示し、日々実践に取り組んでいる。	事業所独自の基本理念(5項目)を掲げ、月1回のグループ会議で復唱することにより、理解と共有に繋げています。利用者一人ひとりの尊重した生き方の支援で理念を踏まえ、介護サービスを実践しているか討議し、介護現場で理念の現実化に向け取り組んでいます。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、自治会費を納入し、地域の情報を頂いている。また、避難訓練の時は、地域の消防団に参加して頂き、避難介助を手伝って頂くとともに施設内部を把握して頂いている。	「地域との交流」を理念の一つに、地域社会の中での暮らしの継続を支援するという熟成された事業所です。施設新聞を地域の戸別に配布し、住民と会話する中で、相談や介護保険、認知症状等の説明を行うことにより、地域貢献にも努めています。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一年に4回施設新聞を作成し、地域の方々へ配布し、施設での生活や活動、また認知症の理解や支援の方法を紹介している。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者の意見を積極的に取り入れ、会議や朝礼等で話し合い、全職員に報告し、改善に努めている。	運営推進会議は、市担当者、家族代表、地域代表(民生委員)、管理者等の委員で構成され定期的に開催されています。事業所の情報発信と参加者の意見交換を行い、サービスの向上に活かすとともに、会議録は全職員で回覧し、情報の共有を図っています。	事業所の行事に合わせて会議を開催し、参加者の意見をサービスに反映しています。今後は他地区長、老人会長等参加者の幅を広げ、行政と委員との橋渡しとしての役割も担い、更に発展する会議になることを期待します。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に意見交換を行っている。また、必要に応じて、市役所に出向いたり、電話で意見を頂いている。	運営推進会議には毎回、市の担当職員の出席があり情報交換を行うほか、更新手続きや推進会議の案内状を届ける為、市を訪問し、担当者に質問や相談を行い連携を深めています。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会に参加し、それを苑内研修で全職員に反映できるよう努めている。	身体拘束廃止の内容とその弊害について全職員が認識しており、内外部研修において意識強化を図っています。虐待においても、言葉掛け等精神的負担にならないよう常に表情を観察し、自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいます。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修に参加し、それを苑内研修で報告したうえで、話し合ってもらい苑内の虐待マニュアルを作っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に積極的に参加し、研修資料を回覧し、職員に学ぶ機会を提供している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の見学を行って頂き、ご家族やご本人の理解を得て、契約を行っている。また、質問等にはいつでも対応できる様にしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置を行い、気軽に意見を出して頂けるようにしている。また、利用者様やご家族様と常にコミュニケーションを図り、関係づくりを行っている。	事業所の行事と合わせ家族会を開催しており、家族の楽しみとなっています。家族同士や職員との交流の場となり、家族の忌憚のない意見や要望を収集しサービスに反映させています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理会議、スタッフ会議、ミーティング等で意見交換を行っている。また、起案書により積極的に意見を取り入れている。	職員の提案事項は利用者にとって必要かの理由付けを繰り返し話し合う中で、職員の意見、要望を全員で精査しサービスに反映させています。また、内、外部の研修会に積極的参加し、報告書をあげ、伝達講習会を行う等、職員の質の向上に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則、給与規則を基に就業環境の整備に努め、働きやすい職場づくりに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、外部、内部研修に参加し、質の向上に努めている。また、外部より講師を呼び新たな視点での意見を聞く事により、進歩を目指している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係機関の研修会に積極的に参加をし、随時情報交換を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や、入居時にスタッフ間で意見交換を行い、安心して生活が出来る環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご家族の思いを傾聴し、ご家族が安心して任せられるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やご本人様のニーズの把握を行い、必要であれば他のサービス提供機関とも連携して対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様を人生の先輩との認識に立ち、家族の一員だという思いで介護に携わるよう努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に、本人様の近況報告を文書でお知らせしたり、時には電話連絡をしながら、連携を図っている。必要であれば外出や病院受診に協力して頂けるような関係づくりを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も、ご家族との連携を図り、帰宅や近隣への訪問、施設内での面会が自由に行えるよう支援している。	毎月1度、自宅の花や野菜を見たいとの希望に応え外出したり、家族の協力で外泊した際、近所、親類の訪問を支援したりと本人がこれまで培ってきた人、場所を家族との連携で実現しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、席の移動や、職員が間を取り持つ工夫をして、利用者様が安心した生活が送れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時も、必要に応じて相談援助を行い、円滑にサービスが移行出来るように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や、介助の場面で、意向の把握に努め、意思表示が困難な利用者様に対しては、本人の立場に立ち、ご家族様の意向も踏まえ把握に努めている。	利用者に介護及び生活のアセスメントを行い、その情報は職員で共有し支援に繋げています。日頃の関わりの中から思いや意向の把握に努めており、中には発語困難な方にはホワイトボードを利用したり、サインを見逃さないようコミュニケーションを取っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族様や担当介護支援専門員等より、ご本人様の生活歴等を聞きると同時に、情報提供書を頂き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックで心身の状態の把握に努めている。また、個々の生活リズムを大切にしながら、現状維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の意向や本人の希望を把握するとともに、月に一度の会議を持ち、プランについての意見交換や、本人様の状態把握に努め、介護計画を作成している。	3ヶ月毎の見直しと、毎月のモニタリングを通じ、関係者の意見とアイディアを反映し、現状に即したケアプランを作成しています。また、ケアプラン実施記録表には、職員により毎日チェックを行い、現状の確認と見直しの必要性を検討し、具体的且つ詳細なプラン作成に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や、介護記録、ケアプランチェック表により、職員全員が情報を共有できるように努め、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様やご家族様の状況に応じて、新たなニーズにも応えられるよう、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練や地域の行事に参加をしたり、地域の名所へのドライブへ出かけたりして、気分転換を図り、心身のリフレッシュを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月1～2回の訪問診療を受けている。また、希望に応じて適切な医療機関への受診支援を行っている。	個々の利用者の意向に基づいた医療支援(かかりつけ医・専門医・緊急時等)の選択が行われています。職員間での情報の共有を大切に、健康状態の周知に努める中で、家族への心身状況の報告による、相互の信頼関係作りにも努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝え相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師が、主治医や協力医療機関の看護師と連携して、入居者様の変化に即対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師や看護師、相談員との連絡を密にし、入院中の状態把握を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看とり指針のマニュアルを作成し、主治医やご家族様と十分な話し合いを行い、方針を決定している。	入所に際し、施設における終末期の支援の状況等について伝達がなされています。利用者の身体状態に応じた家族との相談・意向を踏まえた医療機関との話し合いに努めています。相互理解によるケアの充実に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急救手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習会を開き緊急時のデモンストレーションの研修会を行っている。また、緊急連絡網や緊急対応マニュアルを作成し、全職員に徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災非常時対応マニュアルを整備し、年二回の消防防災訓練を行っている。災害対応マニュアル、緊急連絡網を整備し防災委員を中心に徹底を図っている。また、避難訓練には、地域の消防団の方々にも積極的な参加を頂いている。	火災・地震における座学や呼び出し訓練、火災避難訓練(夜間想定含む)による改善点(環境や避難体制)について、協議や見直し、周知が図られています。職員意識の向上・消防団との連携に努めるなど、安全対策への積極的な姿勢が伺えます。	火災・地震災害時における安全な避難・誘導の体制づくりにおいて、全職員への周知徹底、継続的な訓練が営まれています。昨今の世相を踏まえた更なる危機対策の強化・体制づくりにも期待が持たれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの性格に合わせた言葉かけや対応に努め、介助に際しても無理強いしないよう心がけている。	個の尊重を大切に、日常生活における心地よい言葉かけ・丁寧に伝える思い等への振り返りやプライバシー保護・羞恥心への配慮について、全職員間での理解を深めています。チーム力に基づく支援体制づくりに取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が、その方らしく生活を送れるよう、可能な限り自己決定を重視した支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意思を尊重しつつ、その時の体調に合わせた対応や、個々のペースに合わせた支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の身だしなみには、常に気にかけ配慮している。散髪についても、二ヶ月に一度のサービスも行っているが、ご家族や本人様の希望に沿った対応を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	団子汁の団子をこねて頂いたり、ごぼうの笹がきを作つて頂いたり、自宅で行っていた事を思い出しながら楽しく調理に参加して頂いている。	調理専属職員による栄養・嗜好・食べ易さを考慮した献立が提供されています。可能な調理のお手伝いを職員と共に交えながら、また、イベント食やおやつレクを介しての食への関心を深める工夫、座席の配慮による雰囲気づくりに努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取や水分摂取量のチェックは毎食ごとに行い、水分摂取の少ない方には、適宜援助している。また、食事摂取の少ない方には栄養補助食品を処方して頂き適宜援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、自分で出来るところは行って頂き、義歯の磨き仕上げをさせて頂くとともに、食物残渣が無いか確認させて頂いている。また、口腔ケアの研修会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を使用し、利用者様の排泄パターンを把握するとともに、定期的なトイレ誘導を行い、出来るだけ失禁の無いよう努めながら排泄の自立支援を行っている。	排泄パターンや心身状態の変化を全職員間で共有する中で、自立支援(トイレでの排泄・生活リハ)に積極的に取り組んでいます。意向に沿った援助(夜間対応等)や、羞恥心への留意・気付きによる声かけ支援を大切に、個の尊重に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を提供したり、体操やレクレーションで身体を動かして頂き、自然排便を促しているが、必要な方には医師より処方されたお薬で定期的に排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまはずに、個々にそった支援をしている	基本的には、入浴日は決まっているが、汚染があった時や、希望があった時等、随時入浴を行い、清潔保持に努めている。	週2回を基本とし、心身の状態に合わせた臨機応変な清潔ケアへの実践に取り組んでいます。安全面への配慮と、安心感やくつろぎ(声かけの工夫や着替えの準備・入浴中の会話)を大切に、個々の支援に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの利用者様の生活パターンを受け入れ、テレビを観て休まれる方や、すぐに居室へ戻られる方、また昼寝をされる方等、個々のリズムを重視し、安心して休める環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と連携を図り、服薬管理を行っている。ケース記録に薬情をファイルし、いつでも確認できる様にしている。また、薬が変更になった時は、申し送りで職員に周知徹底を図り、利用者様の観察に努めている。		
48		○役割・楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の興味のある事や、洗濯物のたたみや食事の下ごしらえ、またお花のお世話など、生活歴を生かした役割等積極的に参加して頂き、楽しみを持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一ヶ月に一度は、季節のお花見ドライブに外出介助を行ったり、ご希望があれば、ご家族の協力で外出や外泊等もして頂いている。また、ご家族が対応できない場合、病院受診介助も行っている。	イベントドライブ・個別対応の外出(家族との自宅訪問等)において、現地環境や健康(心身)状態等の留意に努めながら支援に取り組んでいます。日常の散歩や外気浴では、田舎の環境活用・飼育動物との触れ合い等により、気分転換や健康増進が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を手持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方に関しては、ご家族と相談の上、ご自分で管理して頂き、必要な時に遣って頂いている。また、トラブルにならないよう少額にして頂き、全職員が配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様より希望があれば、固定電話を使用して頂き、自由に連絡を取って頂いている。また、郵便物については、居室へお持ちし、本人様へ手渡しをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が常に清潔であるよう、全職員が配慮し、空気清浄機を設置したり、室温や湿度が適度であるよう常にチェックし調整を行っている。また、季節のお花を飾ったり壁紙で季節感のある共有空間を提供している。	利用者の豊かな暮らしと身体能力の保持に繋がる環境の整備・整頓において、安全面(歩行器具の活用・危険防止)の対策と居心地(和みと四季の趣)への配慮を大切に、個々の利用者が共にリラックスできる共用空間づくりに取り組んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、ソファーを設置し、利用者様同士がコミュニケーションをとれるように配慮している。また、一人の時間がとれるよう常に気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、本人様の使いなれた物や、なじみの物を持参して頂き、環境が変わった中でもホッとできる配慮を行っている。また、写真等を貼れる場所を設置し、ご本人のお好きな写真を貼って頂き、いつでも観れるよう配慮している。	暮らし易さと落ち着ける居室の環境づくりへの取り組みの様子が伺えます。家族との相互の交流・協力を大切に、支援(衣服の調整や管理・寝具の入れ替え・家具や備品の配置)に繋げる職員の姿勢が伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平屋でバリアフリー設計にしており、居室やトイレが解り易いように工夫している。また、廊下等には、手すりを付け、出来るだけご自分で歩行できるよう配慮している。		